

ヨハネによる福音書 7章1～9節

今月は、「五千人の給食」以下一連の出来事が続いた6章が終わり、7章に移ります。冒頭の1節に「その後」とあるように、7章から再び、新たな展開が始まります。それは、イエスが「ガリラヤを巡っておられた」（同）ときである、とヨハネの福音書は記しています。

とはいうものの、冒頭から早速、どこか不可思議で分かりにくい言葉が語られています。「こういうことをしているからには、自分を世にはつきり示しなさい」（4）とのイエスの兄弟たちの言葉であり、「世はあなたがたを憎むことができないが、わたしを憎んでいる」（7）とのイエス自身のそれです。今月の箇所（7：1～9）から、私たちははたして、何を読み取り、どんなメッセージを聴き取るでしょうか。

「ユダヤ人の仮庵祭が近づいていた」（2）

- ・時は2節、「ユダヤ人の仮庵祭が近づいていた」頃でした。
- ・ユダヤには、年ごとにエルサレムの神殿でもたれる大きな祭りが3つありました。①過越祭、②五旬祭、③仮庵祭の3つです。そして、その中で最もポピュラーなのが「仮庵祭」でした。
- ・仮庵祭は、チスリの月（ユダヤ暦の第7月）の15日から7日間催されました。後代には8日間に延長されましたが、太陽暦で言うと10月の初旬ごろに当たります。
- ・仮庵祭の「仮庵」とは、「仮の小屋」という意味です。イスラエルの民が奴隷の地・エジプトを脱出して40年の間荒れ野を彷徨ったとき、その荒れ野で設けた天幕（テント）＝「仮の宿」を象徴するものでした。
- ・それは、自分たちは誰の御手によって支えられてきたのか、また支えられているのか、というそのことを歴史を通して振り返り、それを信仰の事実として確認するためでした。
- ・仮庵祭の期間、ユダヤの人々は木の枝や葉で仮の小屋を造り、その中で生活をしました。家の屋上に造る人もいれば、中庭に造る人もいました。あるいは、家の入り口を囲むようにして、これを造る人もいたといいます。
- ・折しも、時はローマ帝国の支配下にありました。祖国を占領され、苦悩のなか、不自由な時を過ごしていました。
- ・そんななか、仮庵祭をまもる人々は祭りの趣旨に重ね、何を思い、何を祈り求めたのでしょうか。
- ・そして、それと似たそれと共通するものがこの私たちの内にもあるように思われるのですが、いかがでしょうか。日々の日常やそこでの思い、祈り、願いを彼らのそれらと重ね合わせて考えると・・・。

「ユダヤ人が〔イエスを〕殺そうとねらっていた」（1）

・一方、感謝と祈りの祭りとは裏腹に、イエス・キリストを取り巻く空気は緊迫の度を増しつつありました。「ユダヤ人が〔イエスを〕殺そうとねらっていたので・・・」と 1 節にあるとおりです。

・エルサレムのユダヤ教関係者を中心にして、イエスを亡き者にしようとする殺意が膨らんでいました。

・それはなぜでしょうか。例えば、

①イエスの出現によって、彼らの求心力が脅かされかねない。

②イエスは彼らを真っ向から批判し、彼らがそれまで築いてきた宗教体制や既得権を崩すようなことすら口にする。

③イエスが自分を神と等しい者としている。

*ユダヤ教の指導者たちが ^{おおやけ}公 の理由として挙げたのがこれでした (ヨハネ 5:18 他)。とんでもない冒涔だ。死罪に値する、と言って。

④その他、考えられるのは？

・こうして、彼らは危機感をつのらせたのではないか。イエスは民衆に害毒を ^ま撒き ^ち散らし、自分らの立っている足もとを揺すぶる男だ、と感じて。

・ですが、はたしてこれだけだったのでしょうか。これら いわば見える表向きの理由の背後に、そもそも人間に付きものの 隠れた動機がありはしなかったか。一考の ^{よう}要がありそうです。

・規定や形式偏重の 当時の宗教状況と、それに対するイエスの態度と働き。そうしたあれこれにも思いをめぐらしつつ、事の奥を探ってみてはいかががでしょうか。

・そこから、何より重要な本質的問題が見えてくるかもしれません。

・そして、そこで イエスは何を大事にされ、それをどうされようとしたのか。

さらには、そこから 私たちが学ぶべきこととは？

御一緒に考えられればと思います。

イエスの兄弟たち：

「ここを去ってユダヤに行き、あなたのしている ^{わざ}業を弟子たちにも見せてやりなさい。

^{おおやけ}公 に知られようとしながら、ひそかに行動するような人はいない。

こういうことをしているからには、自分を世にはっきり示しなさい」(3~4)

・こうして、イエスを取り巻く空気が緊迫の度を増すなか、事はどうやらそれだけでなく、「兄弟たち」までもがイエスに良い感情を ^{いだ}抱いていなかったように見受けられます。上記の 3~4 節がその記述です。

・ここで言う「弟子たち」とは 12 弟子のことではなく、広い意味での一般的な信奉者や同調者たちのことですが、それにしても、イエスに対する兄弟たちの態度はどうでしょうか。とても好意的とは言えないように思うのですが・・・。

・言葉の裏にどんな含みが感じ取れるのでしょうか。そこにあるのはいったい、いかなる感情でしょうか。

- ・兄弟たちをそうした感情に走らせたのは何で、彼らはなぜ、そこから自由になれなかったのでしょうか？
 - ・そんな兄弟たちの姿から、私たちが教えられることとは何でしょうか。
- [参照]「兄弟たちも、イエスを信じていなかったのである」(5)

「わたしの時はまだ来ていない」(6)

- ・このような兄弟たちの言葉に対し、イエスはしかし、次のように答えられます。「わたしの時はまだ来ていない」
- ・ここで「時」という言い回しに用いられている言葉 (^{カイロス}καιρός<^{カイロス}καιρός, οὔ, ὁ) は、(新約聖書の) 原語のギリシア語では、単なる時間の経過を表わす 日常のそれ (^{クロノス}χρόνος, ου, ὁ) ではありません。
- ・丁度良い時、適切な時、的確な時などといった意味での、定まった もしくは定められた特別な時を意味します。それは ここでは神の時とも言えるもので、私たちが自身の都合で決めた時ではありません。
- ・ということは、ここで意味されているその「時」とは いったい、どんな「時」なのでしょう？ それを、ここでは重要な意味合いを持っているように思われます。
- ・それはいかなる時で、そのとき、そこで何がどのようになされるのか。そして、そのことが私たちに、何をどのようにもたらしてくれるのか。大事なポイントではないでしょうか。
- ・イエスは同じ6節で兄弟たちに「あなたがたの時は いつも備えられている」と言われ、だから、「あなたがたは〔自分らの自由^{のほ}に〕 祭りに上って行くがよい」(8) とも言われます。
- ・けれども、「わたしの時」はそうではない、と言われるわけです。

「わたしはこの祭りに^{のほ}は上って行かない。

まだ、わたしの時が来ていないからである」(8)

- ・イエスは8節で、いま一度 繰り返して、このように言われます。
- ・実際には、イエスは「人目を避け、隠れるようにして〔祭りに〕^{のほ}上って行かれ」ますが(7:10)、それにしても これはどういうことなのでしょう。
- ・「まだ、わたしの時が来ていない」とは はたして、どのような理由からそう言われるのか。
- ・2つの視点から考えてみてはいかがでしょうか。すなわち、
 - ①イエスが福音の宣教に費やす時間的の必要と
 - ②イエスを十字架へと追いやる人間の自己認識の問題の二つです。
- ・これらが分からずじまいだと、神の愛も神の恵みも 結局は、よく分からぬままに終わってしまうように思われるのですが・・・。

「世はあなたがたを憎むことができないが、わたしを憎んでいる。」

わたしが、世おこなの行わざっている業わざは悪いと証あかしているからだ」(7)

- ・であれば、イエスを十字架に追いやったものとは いったい、何なのでしょう。
- ・それは、「[世が] わたしを憎んでいる」その憎しみだ、と イエスは言われます。
- ・とはいえ、初めに述べたように、これはどこか分かりにくく、戸惑いさえ憶おぼえさせられる言葉ではないでしょうか。なぜなら、「世はあなたがたを憎むことができない」が「わたしを・・・」と繋つながれているからです。
- ・私たちはしばしば、互いに対して良くない思いを抱いだきます。文字どおり、嘘いみ合い、憎み合うことすら少なくありません。なのに、「世はあなたがたを憎むことができない」と、イエスは言われる。いったい、どういうことなのでしょう？
- ・そしてまた、その一方で、「・・・が、わたしを憎んでいる」とも言われるわけです。これまた、どういう意味なのか。
- ・次の2つのことが理解の手がかりになるかもしれません。
- ①イエスが「世おこなの行わざっている業わざは悪いと証あかし」されたこと。
- ②ユダヤの人たちは結局、「イエスを十字架に！」と 口を揃そろえて合唱し、イエスを丘の上へと追いやったこと（声に出しては叫もばないものの、黙もくしたまま その合唱に迎合した人々も含めて）。
- ・こうしたことから、私たち・世のどんな現実あらが露さらわになり、イエスのどんな姿が明らかになるのでしょうか。
- ・世の私たちとイエスとの違いやいかに？ そこにかぎがあるように思われます。

考えさせられること

- ・今月は、あまり喜ばしくないやり取りが聖書の箇所でした。
- ・ですが、どこか人の世の本質を感じさせる、そんな喜べない出来事からも、私たちは多くのことを学ばされるように思います。

イエスを亡き者にすると、今日こんにちの私たちにとってどういうことか

信仰とは、何がどうあることなのか

クリスチャンであるとは、そもそもどういうことか

そして、特別な時・神の時ということから、何をどう学ぶか など

- ・今月の箇所から、御一緒に考えられたらと思います。